

第2回みんながつくる「地域包括ケア」学習交流会

私たち医療生協の「おたがいさま」活動



鹿児島医療生活協同組合

2018年1月24日(水)
組合員理事 松浦真由美

医療生協(医療生活協同組合)って

健康と生活にかかわる問題を持ち寄り、問題の解決のために病院や診療所、介護サービス事業所などを持ち、利用し、運営にもかかわり、組合員と医療や介護の専門家との一緒に問題の解決をめざすための事業と運動をすすめる消費生活協同組合法（生協法）にもとづき設立された生協です。

私たち組合員は、組合員3名以上でつくる「班」を基本とした健康づくりや安心して暮らせるための制度の充実や平和活動等、地域まるごと健康づくりの取り組みをすすめています。

鹿児島医療生活協同組合について

鹿児島医療生協は1974年2月に設立されました。
650名の組合員と1つの診療所からのスタートでした。

2017年11月末現在

組合員数 136,595名

支部数 39支部

運営委員 482名

班数 2,594班

班組合員 10,862名

事業所 病院3・診療所6 (1歯科併設,6通所リハ併設)・往診専門診療所1

2017年11月新築移転した
国分生協病院 →



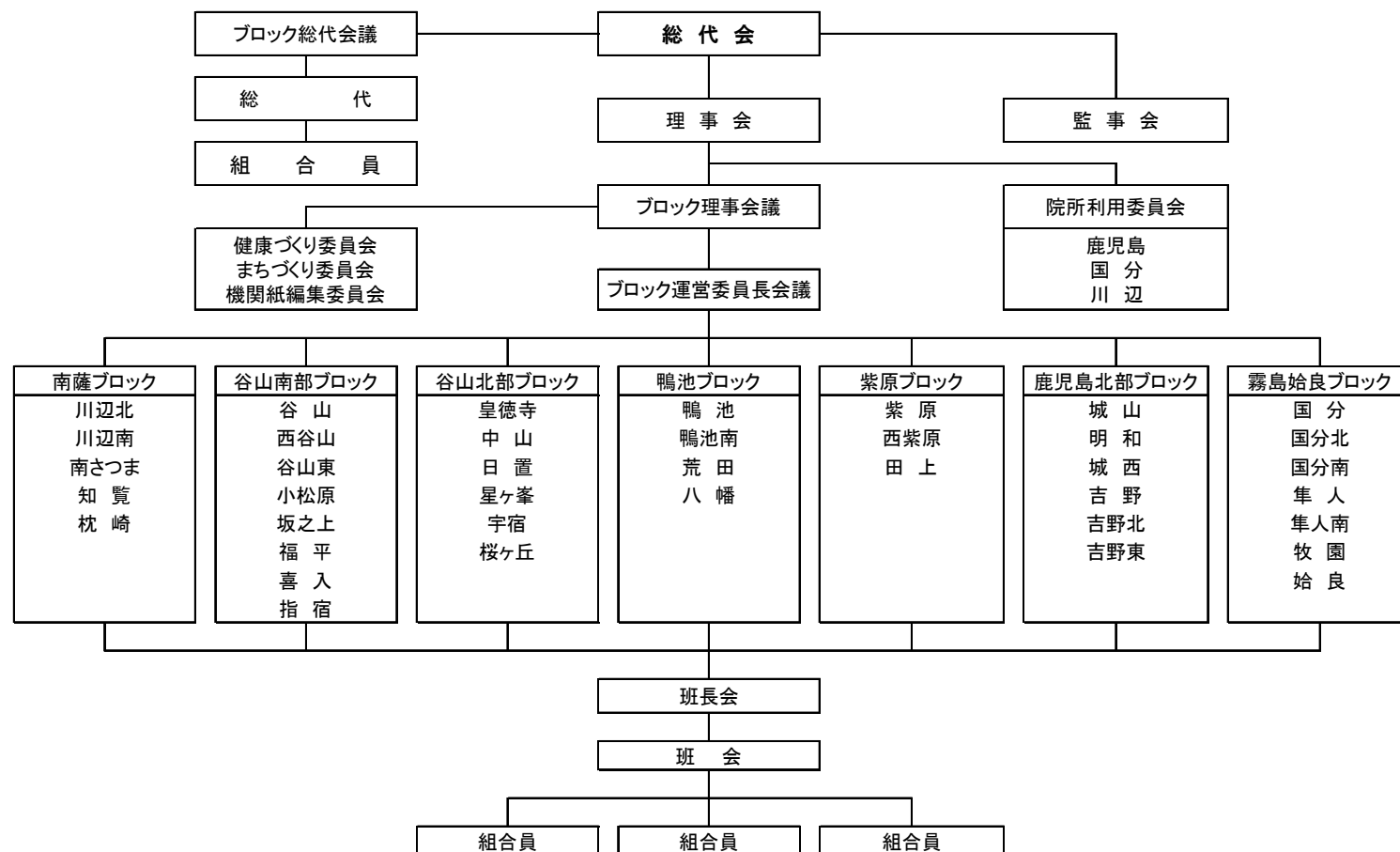
歯科診療所1・訪問看護ST4・訪問介護ST4・訪問入浴ST1
通所介護1・居宅介護支援事業所124時間センター1
病後児保育1・保育園1

私たち医療生協の理念・健康観は

**健康をつくる。平和をつくる。
いのち輝く社会をつくる。**

私たちの大切にする健康観とは「昨日よりも今日が、さらに明日がより一層意欲的に生きられる。そうしたことを可能にするため、自分を変え、社会に働きかける。みんなが協力しあって楽しく明るく積極的に生きる」というものです。

鹿児島医療生協の組織図



枕崎市から霧島市まで39の支部があります。



私たち組合員の活動を一部紹介します。

健康チェック

年間、健康チェック件数61,000件を
目標にすすめています

- 血圧測定
- 尿チェック(尿蛋白、尿糖、
尿潜血、尿中塩分)
- 体脂肪測定
- 血管年齢(動脈硬化度測定)
- 骨密度測定
- 足指力測定
- 大腸ガン自己チェック
- 肺チェッカー
- セフティーフォークナビ など



班会や商店街等でも



保健学校

世界保健デー・禁煙デー

キッズけんこうチャレ
ン



わいわい健康づくり企



他にも、エン
ディングノー
トの普及や健
康体操の普及
等をすすめて
います。

社会保障学校



親子平和企画



平和文集



組合員レクリエーション



他にも、県の高齢期を考えるつどいや消費者団体の学習会、広島や長崎の世界大会への参加等をすすめています。



↑社会保障制度の学習



↑太極拳



↑脳いきいき班会



↑健康チェック班会

鹿児島医療生協の班会の様子

↓救急蘇生法



↓子どもの病気について



↓ダンベル体操



↓アロマフレグランス
ストーンづくり



私たちの地域づくり

「わたしと地域の困った」の解決をめざす
「おたがいさま」活動

地域包括ケアづくりにおける医療生協3つの視点

①地域まるごと健康づくり

地域に暮らすひとびとの健康度に合わせて援助します。

②憲法25条「生存権」13条「幸福追求権」の活きる社会

すべての人が願う「健康でありたい」の先にある「自立して自分らしく
幸せに暮らしたい」という思いの実現を援助します。

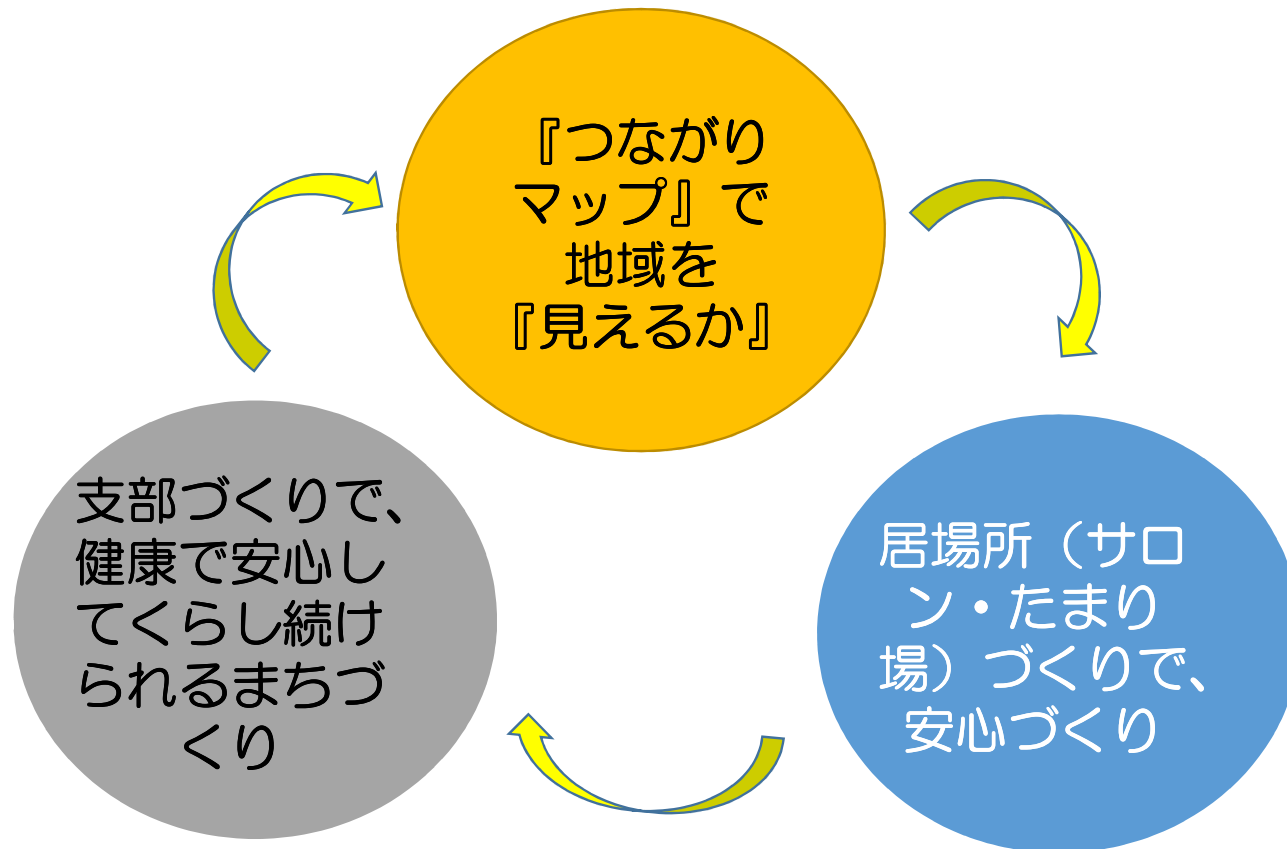
③健康づくり、生きがいづくり、助け合い、絆づくり

医療生協の得意分野、協同のとりくみをすすめます。

医療生協の地域包括ケアにむけて

- 地域で暮らすために心身の必要な状況にあわせ、
「医療」「介護」「介護予防」「生活支援」「住まい」を
切れ目なく、総合的に提供する
- 日常生活圏域ごとに、暮らしやすいまちづくりに必要なサービス
を提供できるよう生活支援・介護予防総合事業を検討する
- つながりマップをつくって、地域を見える化にとりくむ
- 居場所づくりなど、支部活動を総合事業の視点で考えてみる
- 医療や介護だけでなく、暮らしにおける相談機能を強化する
- 相談の解決にむけて、職員と組合員をつなぐコーディネーター
機能を高める（専門家の配置）

3つのつくりょうチャレンジ



つながりマップ



居場所・たまり場づくり

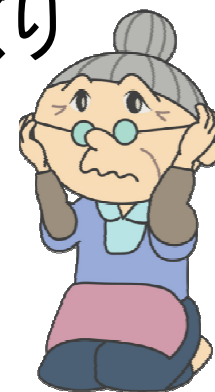


「わたしと地域の困った」を拾い上げ 解決をめざす取り組みと課題

- ①おたがいさまシートの活用
- ②くらしのサポーター(ボランティア等)の育成
- ③地域と事業所、事業所と事業所をつなげる

相談窓口・コーディネートを行う担当者の配置

- ④相談窓口の設置や相談機能を持った居場所づくり
- ⑤組合員と事業所の情報共有・関係づくり
- ⑥他団体とのネットワークづくり、広報活動
- ⑦方針の共有、推進体制の確立



9月にくらしコーディネート
ネーターとして相談の
専門家（主任介護支援
専門員・社会福祉士資
格者）を配置し、事業
所や地域からの困った
ことを拾い上げる「お
たがいさまシート」の
運用を開始しました。
現在16枚シート提出
がありました。

※除金銭以外の目的で贈り物を贈ることはありません。

※設備は店以外の目的で他人の健康を害することはありません。

くらしのサポーターの役割

- ① 組合員や医療や介護等の専門家の知恵と力を借りて困ったことの解決をめざす仕組みを広げます。
- ② 困ったことの相談でサポーターの力でできることは対応します。
- ③ サポーターだけでは解決ができない、地域（組合員）や事業所の力を借りたい時、**おたがいさまシート**を使ってくらしコーディネーターに連絡します。

※登録者 140名（2018年1月4日現在）

おたがいさまの気持ちで「困った」の解決をめざします

退院後、地域の協力で在宅生活を可能にした事例



【相談者】 介護支援専門員

【困っているひと】 50代の独居男性（身寄りがない）、要介護5、生保受給者

【相談内容】 退院前にあたり 家の片付けや生活費を下ろすことができず 困っている。

【対応】

- ・金銭管理は本人の同意をもらって有償ボランティアと契約しました。
- ・家の片付けはケアマネから遺留品を片付ける業者に相談しました。
- ・組合員や事業所から冷蔵庫、洗濯機、電子レンジを頂くことができました。

病院の職員、ケアマネ、訪問看護、通所介護、24時間訪問介護、福祉用具業者の協力で自宅に退院し、退院翌日安心した様子で 好きなコーヒーとパンを食べて 喜んでいたそうです。



閉じこもり状態からボランティア活動を行うようになり、フレイル予防につながった事例

【相談者】 診療所職員

【困っているひと】 外来患者、70代独居女性

【相談内容】

物忘れも多く不安だが、何かできることをしたい。

【対応】

- ・デイサービスのボランティアを紹介しました。
- ・ボランティアや生活の様子を見て介護保険の申請をすることになりました。

仕事で忙しい息子夫婦も、母親が地域でのつながりができ安心したようです。

楽しみが増えて、
元気になりました。



組合員、地域の事業所と協同で解決した事例

【相談者】 訪問看護師

【困っているひと】 70代の独居女性

【相談内容】 退院するが、暖房器具や布団がない。

【対応】

- ・ 社会福祉協議会などから布団をいただきました。
- ・ 医療生協の組合員（機関紙の配布員や理事）や事業所からコタツ、電子レンジ、ホットカーペットをいただきました。
- ・ 他事業所の担当ケアマネが、包括支援センターや社協、民生委員と連携し年末年始の見守りを整えていました。



手作りの箱
と手紙も



諸団体と協力して、くらしの安心を与えた事例

【相談者】 組合員

【困っているひと】 同居の義理の両親（90代、要支援）

【相談内容】

義母が骨折して退院するが、
義父の食事の準備と片付け、掃除などができない。
遠方の娘は二人で入れる施設も教えてほしい。

【対応】

- ・ コープかごしまの『くらしの助け合い活動』を紹介。
- ・ 長寿あんしん相談センターと連携して、生活援助や施設の内容について説明してもらいました。
- ・ 相談者から、“コープかごしま”に連絡して生活支援を受ける予定になりました。



【組合員からの声】

- 困りごとへの視点を持つことで地域を知る機会になります。
- 地域の困りごとを聴きながら、私達で協力できることはしていきたい。
- 組合員以外にも声かけして、医療生協のことを伝え、仲間をふやしていきたい。
- 民生委員をしているが町内会に入っていない方の見守りや一人暮らしの方が分からない。医療生協が協力してくれるとありがたい。

【職員からの声】

- 組合員や民生委員、地域住民と連携して問題解決できる仕組みを待っていました。
- 今まで以上に地域に目を向けて生協の強みを広げていきたい。
- 自分も『組合員』として自分に何ができるか考えていきたい。
- サポーターの養成、組合員との連携、居場所づくりをすすめていきたい。
- 組合員と一緒に学習（組合員さんの生の声が聞きたい）。

「地域（まち）で暮らす」を支援する仕組みづくり

「家で暮らす」を支援するために、
「家族問題」「認知症」「生活困窮」
「社会的孤立」など複雑な「困った」
を抱える人たちをどう支えるか？

地域で暮らし続けるためには様々な困難があります。
医療、介護事業所が組合員や地域の力と連携して、
困った人に向き合い、包括的な支援を提供していくこ
とが安心して暮らせるまちづくりに繋がります。

今後の課題と取り組み

- ◎くらしのサポーター養成講座を開催し、地域にサポーターの活動を広めていく。
- ◎おたがいさまシートの活用と事例を通して、『わたしと地域の困った』を拾い上げていく。
- ◎地域でおたがいさま活動を増やし、フレイル予防やボランティア活動を進めていく。
- ◎地域の諸団体や行政の仕組みに協力しつつ、活動し、諸団体と連携し、『医・福・食・住』の一体的な提供ができる仕組みづくり。
- ◎組合員や地域の方々が、なんでも相談できる、頼れる医療生協をめざして取り組みをすすめる。
- ◎『エンディングノート』の普及